

平成16年度 個別の指導計画 (1 学期)

例	3 年 1 組	名前 AA A男	男女 男	年 月 日 生まれ	担任 ZZ Z子	実態の分析と指導の方向性
年間 長期目標	わからない事は人に確認して行動に移す。 上記をふまえ、自分で判断し行動できる場面を増やす。		主訴 (担任) 集団内での指示の理解と行動の困難 授業に集中できない。		場面理解や対人社会性の困難がある。 本人にそれを自覚させると共に、その為の手立てを教えながら、自分で解決できる力を育てていく。	
	板書をする。 板書をするための筆記用具の管理をする。		(保護者) 集団内での指示の理解と行動の困難 持ち物の管理の困難			
学 習 面	国語 聞く(聴覚的注意・理解)	学期 短期目標 (具体的内容) 予め約束をしていた箇所を板書する。	支援・配慮の方法 (形態、時間、場所等)	評価(学期末記入)		
	話す (語彙・表現)					
	読む (音読・読解)					
	書く(文字表記・文表現)					
	算数 知識・理解					
	表現・処理					
	数学的な考え方					
その他						
対 人 社 会	場面や指示の理解	指示がわからない時には、板書を見る。 その意味を先生や友達に確かめる。	重要な指示は板書もし、わからない時に確かめることのできる手がかりを増やす。 普段も可能な限り文字や絵図を使うなどして指示を明確にする。 全体の指示のあとに個別に指導する。			
	人の気持ち、心の理解(共感性)					
	常識・社会的ルール(協調性)					
	善悪の判断(価値意識)					
	対人・コミュニケーション力					
	柔軟な対処の困難(こだわり)					
その他						
行 動 情 緒	指示の受け入れ	友だちの持ち物は断って見せてもらう。 持ち物が気になったら、「それ、見せて」と言って見せてもらう。 見たらすぐに返す。相手が「やめて」と言ったら諦める。	クラスの友達にも、本人がすぐに返すという約束を守っていることを確認し、声かけの仕方も教えておく。			
	不注意・集中困難					
	多動性					
	衝動性					
	寡動性・無気力・ぼんやり					
	パニック(興奮 コントロール困難)					
	暴言・暴力					
	心因反応(心理社会的要因)					
その他						
身 体 運 動	身体・健康	体育時は、その時間に指示された練習をする。	課題の近い子と一緒に練習をする機会も作り孤立感を持たせないようにする。			
	粗大運動(全身 協応・筋力)					
	微細運動(手指の巧緻性)					
	その他					
そ の 他	生活習慣・身辺自立	筆箱の中味をそろえる。(板書をするために)	鉛筆に番号を書き筆箱に順に並べさせる。帰宅後にもチェックし、保護者と一緒に表にしてもらうことで本人に自覚をさせる。足りないときには補充させる。そろっていたら誉める。			
	家庭での教育・養育配慮					
	登校しぶり					
	その他					

弱い部分に (プラス評価できる部分があれば もつける)